

事業概要

補助事業番号：20-2-019

補助事業名：平成20年度心身障害児の療育相談指導等補助事業

補助事業者名：社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

心身障害児とその家族を対象として総合的に療育相談を行い、障害児ごとに適切な療育相談を行うとともに、全国各地域の父母団体と協力し合い、障害児のための各種の福祉活動を実施し、もって社会福祉の増進に寄与する。

(2) 実施内容

ア. (福) 全国心身障害児福祉財団が行う事業

(ア) 障害児及び家族に対する療育相談の実施

本財団療育相談センターに来所した障害児とその家族に対して、医師及び専門家による診断助言を行い、適切な療育指針を提供した。また、療育指導の手引き書を作成して特別支援学校・障害児関係施設及びセンター来所者等へ広く配布した。

(イ) 障害児及び家族に対する治療訓練

(i) 障害児及び家族に対するグループ治療訓練

障害児を発達状況に応じて数人ずつのグループに分け、それぞれのグループに対して治療訓練プログラムを実施した。また、母親に対しても同時並行してカウンセリングを行った。

(ii) グループ宿泊訓練

グループ間の交流を深めながら、実践的生活指導を身につけるために三泊四日の合宿訓練を次のとおり実施した。

a. 実施期日 8月3日～6日

b. 実施場所 山梨県南巨摩郡「なかとみ青少年自然の里」

c. 参加者 25名

(iii) 障害児及び家族に対する個別治療

特に心理及び言語の面で問題をかかえる障害児に対して、それぞれ個別の治療訓練を行った。

(ウ) 競輪場を利用した地域指導者養成研修

地域レベルでの障害児(者)父母団体の連携を図るためのリーダーの養成研修と競輪への理解を深めるための競輪講座を全国6会場で1泊2日の日程で開催した。

《ここに表1を入れる》

(エ) 子育て支援のための指導誌の発行

乳幼児を持つ親や教育・保育従事者に障害の有無を問わず、より良い子育てのあり方を

指導するための指導誌を年4回発行した。

イ. (社)日本筋ジストロフィー協会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

筋ジストロフィー患者及び家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌を1種類、さまざまな情報や伝達を目的とした会報を6回発行して配布した。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

全国の筋ジストロフィー患者の家族のために療育相談活動を実施した。

(ウ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

日頃社会から隔絶された状況にある筋ジストロフィー患者及び家族に対し、将来への生きる指針を獲得させるために一泊二日の集団キャンプを29回下表のとおり実施した。

《ここに表2を入れる》

ウ. 全国ことばを育む会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

言語障害児及び家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌を4種類、さまざまな情報や伝達を目的とした会報を6回発行して配布した。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

言語障害児及び家族に対する療育指導を積極的に奨めるために治療教育相談を17回下表のとおり実施した他、全国の言語障害児の家族のための療育相談活動を実施した。

《ここに表3を入れる》

(ウ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

日頃社会から隔絶された状況にある言語障害児及び家族に対し、将来への生きる指針を獲得させるために一泊二日の集団キャンプを4回、二泊三日のキャンプを2回下表のとおり実施した。

《ここに表4を入れる》

エ. 全国難聴児を持つ親の会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

難聴児及び家族に対して、さまざまな情報や伝達を目的とした会報を4回発行して配布した。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

全国の難聴児の家族のための療育相談活動を実施した。

(ウ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

日頃社会から隔絶された状況にある難聴児及び家族に対し、将来への生きる指針を獲得させるために一泊二日の集団キャンプを3回、二泊三日の集団キャンプを2回下表のとおり実施した。

《ここに表5を入れる》

オ. (社) 日本自閉症協会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

自閉症児とその家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌を1種類、さまざまな情報や伝達を目的とした会報を6回発行して配布した。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

自閉症とその家族に対する療育指導を積極的に奨めるために治療教育相談を8回下表のとおり実施した。

《ここに表6を入れる》

(ウ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

日頃社会から隔絶された状況にある自閉症児及び家族に対し、将来への生きる指針を獲得させるために一泊二日の集団キャンプを5回下表のとおり実施した。

《ここに表7を入れる》

カ. (社) 全国肢体不自由児・者父母の会連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

肢体不自由児及びその家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌を1種類、さまざまな情報や伝達を目的とした会報を2回発行して配布した。

(イ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

日頃社会から隔絶された状況にある肢体不自由児及び家族に対し、将来への生きる指針を獲得させるために一泊二日の集団キャンプを3回、二泊三日の集団キャンプを4回下表のとおり実施した。

《ここに表8を入れる》

(ウ) 指導者養成研修

障害者の自立更正を促進する指導者を養成するために、全国を7ブロックに分けて、それぞれ研修会を下表のとおり実施した。

《ここに表9を入れる》

キ. 全国聾学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

ろうあ児とその家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌を1種類、さまざまな情報や伝達を目的とした会報を3回発行して配布した。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

ろうあ児とその家族に対する療育指導を積極的に奨めるために治療教育相談を6回下表のとおり実施した。

《ここに表10を入れる》

(ウ) 聴覚障害生徒スポーツ振興事業

ろうあ児の体力向上を通して意欲的な人間を育てるために、陸上競技大会と卓球大会を下表のとおり実施した。

《ここに表11を入れる》

ク. 全国盲学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

盲学校へ通う盲児とその家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌を2種類発行して配布した。

(イ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

日頃社会から隔絶された状況にある盲学校へ通う盲児とその家族に対し、将来への生きる指針を獲得させるために一泊二日の集団キャンプを下表のとおり実施した。

《ここに表12を入れる》

(ウ) 視覚障害生徒スポーツ振興

盲児の体力向上を通して意欲的な人間を育てるために、野球大会を下表のとおり開催した。

《ここに表13を入れる》

ケ. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

病弱虚弱児とその家族に対して療育技術の解説を内容とした指導誌を1種類発行して配布した。

(イ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

日頃社会から隔絶された状況にある病弱虚弱児とその家族に対し、将来への生きる指針を獲得させるために一泊二日の集団キャンプを4回下表のとおり実施した。

《ここに表14を入れる》

(ウ) 社会復帰のための社会適応講座の開催

学校卒業を目前にした病弱虚弱児に対して社会適応のための実践的な指導講座を6回下表のとおり実施した。《ここに表15を入れる》

コ. (社) 日本てんかん協会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

てんかん児とその家族に対してさまざまな情報や伝達を目的とした会報を12回、てんかんについての療育技術等の指導誌を1種類発行して配布した。

サ. 全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

特別支援学校知的障害教育校に通う知的障害児とその家族に対して、さまざまな情報や

伝達を目的とした会報を2回発行して配布した。

シ. 全国視覚障害児（者）親の会が行う事業

（ア）障害児の親のための指導誌（紙）の発行

視覚障害児とその家族に対してさまざまな情報や伝達を目的とした会報を2回発行して配布した。

ス. 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会が行う事業

（ア）障害児の親のための指導誌（紙）の発行

肢体不自由特別支援学校に通う肢体不自由児とその家族に対してさまざまな情報や伝達を目的とした会報を1回発行して配布した。

セ. （財）日本ダウン症協会が行う事業

（ア）ダウン症児・者の自転車教室

運動能力が劣るダウン症児・者に自転車教室を開催した。

《ここに表16を入れる》

2. 予想される事業実施効果

ア. (福) 全国心身障害児福祉財団が行う事業

(ア) 障害児及び家族に対する療育相談の実施

本財団療育相談センターの受診で得た知識と自信によって、今後の家庭での生活に向けて大きな支えとなっていくことが期待される。

(イ) 障害児及び家族に対する治療訓練

それぞれの状況に応じた適切な治療訓練を受けたことで、実際の生活環境を一層広げていくことが期待される。

(ウ) 競輪場を利用した地域指導者養成研修

競輪に対しての知識や認識を深めることができた予想される。また、普段はあまり交流のない団体同士が、互いの意見を交換しあうことで、お互いを理解することができた予想される。

(エ) 子育て支援のための指導誌の発行

障害児を持つ親や教育・保健従事者が本誌を活用し育児及び子育てに関する適確な情報を、提供することができた予想される。

イ. (社) 日本筋ジストロフィー協会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

筋ジストロフィー患者及び家族が療育技術やささまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

最新の医療技術に基づく効果的な療育指針を得たことにより、今後安定した健康保持への意識が向上することが予想される。

(ウ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

将来への生きる指針を獲得することで、地域社会に積極的に溶け込み、しいては明るい人生を歩んでいくことが期待できる。

ウ. 全国ことばを育む会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

言語障害児及び家族が、療育技術やささまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

最新の治療教育水準を獲得したことで、社会参加への明るい希望と自信を持つことが予想される。

(ウ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

将来への生きる指針を獲得させることで、地域社会に積極的に溶け込み、しいては明るい人生を歩んでいくことが期待できる。

エ. 全国難聴児を持つ親の会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

難聴児及び家族にとって、療育技術の解説やさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

難聴児及びその家族が、最新の療育水準を獲得したことで、社会参加への明るい希望と自信を持つことが予想される。

(ウ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

将来への生きる指針を獲得することで、地域社会に積極的に溶け込み、しいては明るい人生を歩んでいくことが期待できる。

オ. (社) 日本自閉症協会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

自閉症児とその家族が、療育技術の解説やさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

自閉症児者とその家族が、最新の治療教育水準を獲得したことで、社会参加への明るい希望と自信を持つことが予想される。

(ウ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

日頃社会から隔絶された状況にある自閉症児とその家族に対して、将来への生きる指針を獲得させることができたことで、地域社会に積極的に溶け込み、しいては明るい人生を歩んでいくことが期待できる。

カ. (社) 全国肢体不自由児・者父母の会連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

肢体不自由児及び家族が、療育技術の解説やさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

(イ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

将来への生きる指針を獲得させることで、地域社会に積極的に溶け込み、しいては明るい人生を歩んでいくことが期待できる。

(ウ) 指導者養成研修

障害者の自立更生を促進する指導者の技術を一層充実させることで、障害者の自立更生の可能性と範囲が広まっていくことが期待される。

キ. 全国聾学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

ろうあ児とその家族が療育技術の解説やさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

(イ) 心身障害児対策の無料検診

ろうあ児とその家族に最新の治療教育水準を獲得したことで、社会参加への明るい希望と自信を持つことが予想される。

(ウ) 聴覚障害生徒スポーツ振興事業

ろうあ児の体力向上を通して意欲的な人間形成に寄与することで、ろうあ児の社会参加の可能性を拡大していくことが予想される。

ク. 全国盲学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

盲学校へ通う盲児とその家族が療育技術の解説やさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

(イ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

将来への生きる指針を獲得させることで、地域社会に積極的に溶け込み、しいては明るい人生を歩んでいくことが期待できる。

(ウ) 視覚障害生徒スポーツ振興

盲児の体力向上を通して意欲的な人間形成に寄与することで、盲児の社会参加の可能性を拡大していくことが予想される。

ケ. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

病弱虚弱児とその家族が療育技術やさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

(イ) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

将来への生きる指針を獲得させることで、地域社会に積極的に溶け込み、しいては明るい人生を歩んでいくことが期待できる。

(ウ) 社会復帰のための社会適応講座の開催

実践的な意欲と技術を獲得することで、社会参加への自覚と責任を持って意欲的な人生を歩んでいくことが予想される。

コ. (社) 日本てんかん協会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌（紙）の発行

てんかん児とその家族がさまざまな情報を自分のものとし生かしていくことが予想され

る。

サ. 全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

特別支援学校知的障害教育校に通う知的障害児とその家族がさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

シ. 全国視覚障害児(者)親の会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

視覚障害児とその家族がさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

ス. 全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会が行う事業

(ア) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

肢体不自由特別支援学校に通う肢体不自由児とその家族がさまざまな情報を自分のものとして生かしていくことが予想される。

セ. (財)日本ダウン症協会が行う事業

(ア) ダウン症児・者の自転車教室

自転車に乗れるようになったことが本人たちの自信となり、今後ますます活動を積極的に行っていくことが予想される。

3. 本事業により作成した印刷物等

《ここに表17を入れる》

《ここに表18を入れる》

《ここに表19を入れる》

4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名：社会福祉法人全国心身障害児福祉財団(ゼンコクシンシンショウガイジフクシザイダン)

住所：162-0051

東京都新宿区西早稲田2-2-8

代表者名：理事長 今泉 昭雄(イマイズミ アキオ)

担当部署：業務部(ギョウムブ)

担当者名：業務部員 町野 忠史(マチノ タダシ)

電話番号：03-3203-1284

FAX番号：03-3208-1337

E-mail：gyoumubu@shougaiji-zaidan.or.jp

U R L : <http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/>